

1学年便い 12月

No 8 H26.12.6

早いものでもう2学期も最後の月を迎えます。期末考査も終わり、結果が返ってくるのをどんな気持ちで待っているのでしょうか。「人事を尽くして天命を待つ」の心境でしょうか。それとももっと勉強しておけばよかったというような後悔の気持ちでしょうか。いずれにしても進級を大きく左右する考査だったことにまちがいありません。この結果次第で、楽しい冬休み、楽しい新年を迎えられるか、それとも冬休みを補習でつぶし、憂鬱な新年・3学期を迎えるか、のどちらかになると思います。どうせなら楽しい正月を迎えたいですね。

そして、年末から年始にかけて様々な行事があります。日本は「宗教の自由」を法律で保証しています。その甲斐あってかどうか、12月25日はクリスマス=イエス・キリストの誕生日？をお祝いする行事。そして12月31日から1日にかけて除夜の鐘=日本仏教にて年末年始に行われる年中行事の一つ。除夜(大晦日の夜)の深夜0時を挟む時間帯に、寺院の梵鐘を撞(つ)くことである。1月1日から初詣=年が明けてから初めて神社や寺院などに参拝する行事。一年の感謝を捧げたり、新年の無事と平安を祈願したりする。

キリスト教を信じ、仏教・神道と様々な神をお参りします。そうそう、日本古来の神は「八百万の神」と申しますのでこれで良いのでしょうか。イベントがあるのは良いことですが、ハメを外さないようにしましょう。

12月の行事予定

1日(月)	期末考査
4日(木)	期末考査・全校集会・頭髪指導
17日(水)	M日課
22日(月)	終業式
23日(火)	冬季休業 ~
29日(月)	校舎施錠
31日(水)	校舎施錠

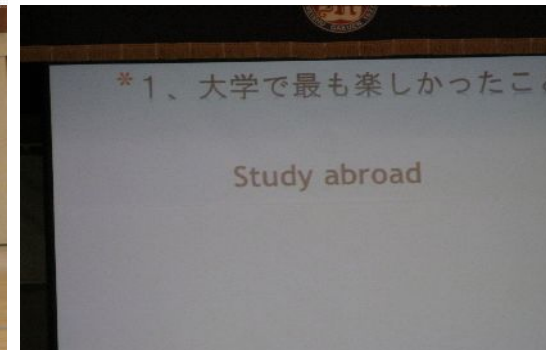


1月の行事予定

1日(木)	校舎施錠
3日(土)	校舎施錠
8日(木)	始業式・頭髪指導
9日(金)	推薦入試・自宅学習
10日(土)	推薦入試判定会議
12日(土)	成人の日(祝日)
13日(火)	推薦入試合格発表
20日(火)	一般入試・自宅学習
21日(水)	小論答練



学年集会報告(11月12日)



五十井先生の講話

私は大学生時代、英語の勉強に最も力を注ぎました。中学生の頃から英語の教師になることを夢見ていたので、学生の本分である学業に専念してきました。

英文法や英単語の知識は大学の授業で学ぶことができましたが、発音やアクセントは日本で勉強することは困難でした。そのため私は留学を決心しました。また語学力を鍛えるためだけではなく、様々な国の人々と交流をしたいと思い、アメリカのカリフォルニアを留学先を選びました。

実際にアメリカ人と会話をしてみると、話すスピードがあまりにも速く、満足に聞き取ることすらできませんでした。また当時は発音も悪く、言いたいことも言えない日々が続きました。

しかし1ヶ月ほど英語だけの生活を送っていると、自分の成長がはっきりと自覚できました。自分1人で買い物や観光に出かけられるくらいの語学力を身に付けることができました。

時間にすれば2ヶ月と短い日々でしたが、自分の好きな勉強に専念できたこの期間は私の大切な宝物となりました。



入		支出	
学食	48,000円	交通費	16,000円
アルバイト	100,000~120,000円	ケータイ代	8,000円
		交際費	25,000円
		食費	20,000円
	148,000~168,000円	趣味・娯楽	10,000円
		貯金	50,000円
		生活費	20,000円
		計	149,000円

松本先生講話

私は大学時代、家庭の事情で家計を助けながら、自分自身で学費を稼いで生活していました。私の通った東洋大学文学部教育学科のイブニングコースは、私のような事情をもった学生にとって、最適な学舎でした。まず、学費が昼間の学科の半額程度であること。また、希望すれば、指定の科目で昼間の時間帯の授業を受けられること。4年で無理なく卒業できるということです。

大学に入学してからは、週に5日、9時から17時までアルバイトをし、18時から21時

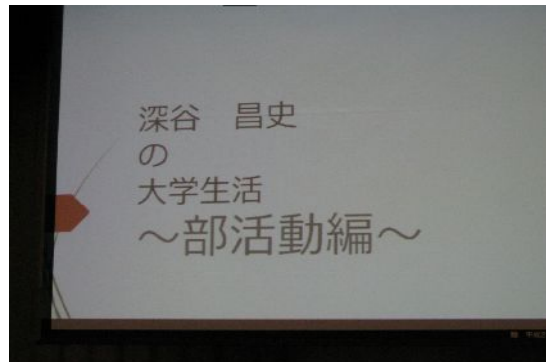
過ぎまで授業を受け、23 時頃に帰宅するという毎日を送っていました。その中でも、奨学金を受け続けるために、成績を高水準で維持する努力をしました。

もしかしたら、家庭の事情で、進学は無理だと考えている人もいるかもしれません。しかし私は、どんな方法を使ってでも進学して欲しいと考えています。なぜなら、進学できた事で、私自身の世界が大きく広がったからです。

大学に通った4年という月日は、多くの経験を積むことができました。これらは私自身の誇りです。



深谷先生講話



私の大学時代は、部活動が一番充実したものでした。部活動に所属するメリットは他学科の学科の友達が多く出来る事です。

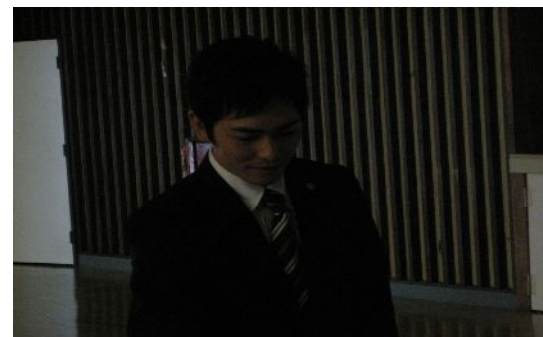
大学には日本全国から多くの人が集まります。しかし、自分が所属する学部・学科以外の人とはほとんど関わりがありません。部活動には大学全体から人が集まります。しかも、自分が今までやってきた競技の部活動に入れば、その競技だからこそ味わう苦しみや喜びがあるので、大学で一番仲の良い友達が部活動の人となるケースもあります。よって、部活動に入ると友達が増えるのです。

他学科の友達が増えるといろいろな事を知ることができます。私は数学科という学科にいたのですが、部活には土木工学科という学科の友達が多くいました。良く研究室に行かせてもらって研究について教えてもらったりとか、手伝ったりすることにより、土木について知る事もできました。大学のテスト前になるとそこで一緒に夜遅くまで勉強したりもしました。

特に助けられたのは就職活動の時です。仕事に就くにしても試験を突破しなくてはなりません。大学時代はその友達とは一緒に試験勉強したり、将来について語り合ったりしました。

そういうこともあり、私の今の私がいます。

『大学の友は一生の友』と言われるます。みなさんも大学進学を考えて今から頑張っ勉強して下さい。



泉田先生講話



大学時代は授業、研究以外ではサークルで音楽漬けの日々でした。生命と音楽は非常によく似ています。どちらも不規則に見えてきちんと規則があり、勝手気ままにできそうだけど良いものは必ず規則に当てはまる。僕が音楽に惹かれたのはそんなことを何となく感じたからのような気がします。

話を戻しますと、今回はサークル活動と部活動の違いについて少しだけ話させて頂きました。やはり、大きな違いは「顧問の有無」と「部費の有無」と思っています。この2点がサークル活動では無いので、大人達の手を借りずに自分たちの力で自分たちの活動が出来る。これが大きなサークル活動のメリットでは無いでしょうか。

大学時代にこのような活動をでき、組織の運営に関わることができた経験は、あらゆる場面で僕を助けてくれています。

最後に、時間の関係上お話しできませんでしたが、サークル活動のデメリットも記しておきます。それは「顧問の不在」です。教える側も学生のため、正しい指導は受けることができません。つまり、楽しいだけで終わる可能性もあります。

大学は自分のやりたいことを自由に表現し、自分を見付ける場です。そのための知識として様々な活動のメリット・デメリットを知り、自分が何をするか、何をしたいかを選べるようになって下さい。

この活動が皆さんの進路決定の手助けになれば幸いです。